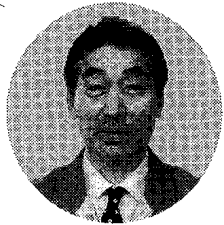


「冷凍輸送」特化、増車に意欲

【埼玉】「良い車（トラック）、良いドライバーが全て。車だけ増やしても駄目で、『また来てほしい』と荷主に言われるようなら、ドライバーを一人でも多く育てたい」。高運送（高伊佐武社長、埼玉真和光市）の高裕次郎専務はこう言い切る。冷凍輸送への特化を進め、需要の受け皿となる増車に意欲的だ。

高運送 車両数と実績が強み



高専務

1970年の設立で、大手乳業メーカーの乳製品輸送を6両でスタートした。現在、本社営業所と福島営業所（福島県本宮市）、山梨営業所（山梨県甲府市）を合わせて車両数100両超まで成長。冷凍車が8割で、「（東日本大震災後の）こういう時期だからこそ」（高専務）と、こじしは3〜4ト車7両、大型車2両00社程度に上るが、既存荷主に対しても「車の空きがありません」と日々の営業が欠かさない。「冷凍車しか生きる道はない。夏場に需要が偏る仕事もあるが、複数の仕事を組み合わせて稼働率を上げている」

評価される会社めざす

の取引が、結果としてドライバーのレベルアップにつながった。40年間死亡事故ゼロを継続中で、スピードリミッターは4ト車にも搭載。デリケートな製品を扱うため、品質へのこだわりも強い。従来「4ト車は冷気が逃げやすい」ことが課題だったが、冷却効果に優れた冷凍機を搭載した新型冷凍車を導入。昨年製品の溶解事故ゼロを達成した。車両の仕様だけでなく、ドライバーのスキルも重要な要素で、外気を入れないための細心の注意を徹底している。



載。デジタルタコグラフ、ドライブレコーダーといった機器も教育に役立てている。荷主の輸送協力が主催するドライバー研修やコンテストにも積極的に参加し、スキル向上に余念がない。車両規模と輸送実績が強みとなり、引き合いも多いが「車はありませんと言わない」のがモットーだ。高専務は、「車両数があるからこそ（仕事を）受けられる。車両数を90両から100両にすれば、『10両分の仕事を増やそう』と朝から営業態勢になれる。（荷主に）使ってもらって評価される会社を目指したい」と話す。

（石井 麻里）